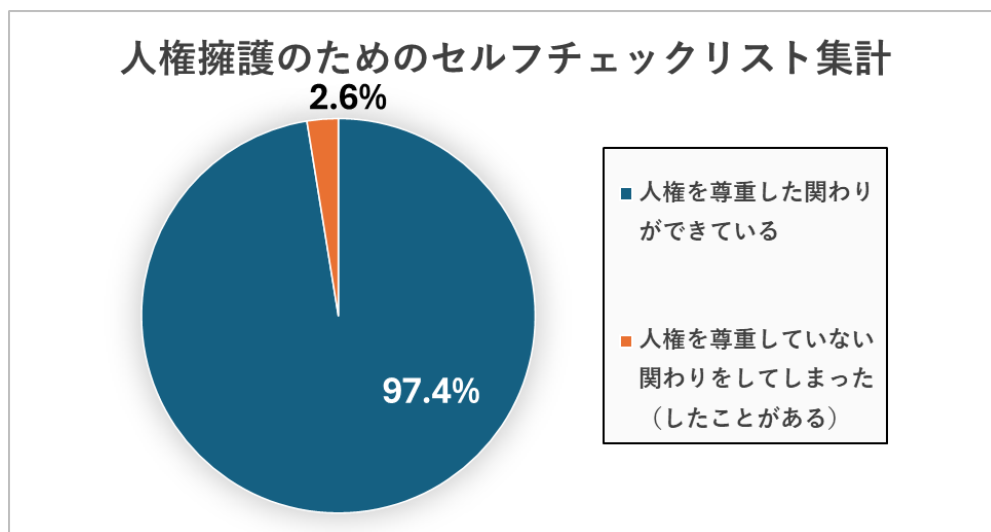


住吉保育所 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して97.4%が望ましい対応をしていることが分かりました。2.6%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、状況によって異なり、活動の内容を考えると、すぐにトイレへ行くことが難しい場所もあるので、トイレを促しています。強制ではなく、子どもたちへ理由を伝え、それでも行きたくない場合は、子どもの気持ちを尊重していくことを再度共有しました。また、乳時期の子どもたちは、トイレへ行くタイミングが一人ひとり異なり、おむつから布パンツへの移行時期とも重なる子がいるため、個々の排尿感覚を概ね把握し、様子を見ながら子どもたちに寄り添った声かけを心がけることを確認しました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、状況により言葉がけに困ることはありますが、「〇〇してから〇〇しよう。」と強制するような言い方や、子どもたちのやる気が損なわれてしまうような言葉ではなく、子どもたちが「次はどんなことするのか。」「楽しいことがあるのかな。」など、活動に期待が持てるような伝え方が望ましいと思います。活動を切り替える際は、切り替える少し前に、一度声かけをすることで、子どもも見通しをもって活動することができ、お互いに余裕を持ってスムーズに行動できるのではないかと確認しました。

少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、少食な子は、定量でも多いと感じて食べる意欲を失うことがあります。自分で量を選んだり、苦手な物の量を調整するなど、大人とのやり取りが大切だと確認しました。自分で決め、食べきれた時の達成感や満足感にもつなげていきたいと共有しました。